

今年度は「家族支援について考える」をテーマに取り組みます。



令和元年度 みょうこう ケアフォーラム 通信



令和元年度 第2回 みょうこうケアフォーラムを開催しました！

- 日 時：令和元年11月21日（木）18時30分から20時00分
- 会 場：新井ふれあい会館 ふれあいホール
- 参加者：84名（介護ネットワーク事業所、医療機関、薬局、福祉用具事業所等）
- 内 容：①座談会 事例紹介 2事例
②講話「家族支援について考える」県立看護大学准教授 酒井禎子様
③グループワーク・まとめ

概 要

第2回フォーラムは、家族支援について2事例の実践報告をしていただいた後、『家族支援について』をテーマに、県立看護大学 酒井先生より、講話をいただき、最後にグループワークで思いを語り合いました。

いろいろな意見が交わされましたが、特に地域の方たちとの協力や助け合いについての話が多くでていました。酒井先生のお話では「家族支援の奥深さを学びました。」「もっと学びを深めなければと思いました。」などの感想がありました。

司会から第1回目の振り返りがあり、内容にうつりました。



司会は実行委員会の池田さん

事例紹介 ①

○要介護の母と息子の2人暮らしの事例

事例提供：揚石医院内科小児科循環器科 川上 道子様
さくらメディカル新井訪問介護事業所 上田 美穂様

川上さんから事例の紹介をしていただいた後、インタビュー形式で、支援の経過や思いをお話いただきました。※家族支援についてまとめていただいたスライドを資料として添付していますのでご覧ください。

脳梗塞で入院し、退院後「在宅生活は難しい」と思われていました。しかし「在宅生活をしたい」というご本人とご家族の希望があり、デイサービスや訪問介護と連携し支援計画をたてま

訪問介護は、対象者個人ではなく家に行く意識で、訪問しています。
一言で会話が終わっても、必ず話す時間をとることで、ちょっとしたことでも相談してもらえる関係になれました。

介護者支援では、心理的負担の軽減が一番大きかったと思います。相談相手や介護状況が共有できる人の存在が大切だと感じました。



事例紹介 ②

○高齢夫婦2人暮らしで妻が認知症の事例

事例提供: 居宅介護支援事業所山なんてん 飯吉 瞳 様
妙高地区民生委員児童委員 宮下 義輝 様

「緊張して、メモを忘れてしまった」と笑いをとりながら、長年のかかわりの中で、大事だと思ふことを、率直にお話くださり事例のご家族に対する、温かい思いが伝わりました。

周囲は心配しているけれど、本人や遠方の家族はサービス導入を拒んでいる状態でした。計画通りに進みませんが、ご近所や民生委員さん、主治医、薬剤師さんと連携し、在宅生活を続けています。



地域ケア会議をして、自分が知らない情報もきけ、整理できました。昔から知っている方で、奥さんは優しい人でした。

地域での見守り。向こう三軒両隣が大事だと思います。

講話

『家族支援について』 新潟県立看護大学 准教授 酒井 禎子 様

I. 日本の要介護者の家族が抱える問題

- ・単独世帯、夫婦のみ世帯、親と未婚の子のみの世帯の割合が高い
- ・家族介護者では男性が4割と増加傾向。
- ・精神的負担、身体的負担、経済的負担を感じている人が4~6割強と高い。
- ・年間10万人が介護離職をしている。

事例と理論をつながながら「家族支援」についてお話いただきました。

II. 家族介護者を取り巻く課題

- ・相談に関する課題 ・家族介護者が抱える課題。地域、専門職等との関係に関する課題。介護離職・仕事との両立に関する課題

III. 家族支援の基本となる考え方

- ・家族介護者個人を対象とした支援...家族介護者自身の全人的なアセスメントと支援
- ・家族全体への支援...家族が抱える悲嘆への支援



GW・まとめ

『事例や講話をきいて、家族支援について考えたこと』について意見交換をおこないました。

- ・ケアマネはサービス調整の前に家族調整をすることが大事。
- ・家族の意見が違い、家族に会いたくないと思ったこともある。
- ・あいまいな喪失について家族がそういう思いをしていることを学んだ。
- ・本人だけでなく、家族も相談できるような関係を持ちたい。
- ・近所との関係性が課題だと感じた。

- ・どれだけ本人家族と信頼関係を作るか。
- ・物語を知る関係性を作る。
- ・思いをキャッチできる感性が大事。



まとめは実行委員会の揚石先生



今年度もみょうこうケアフォーラムは、年3回を予定しています。第3回の詳細は、後日改めてご案内します。

事例紹介 ① のまとめ

* 要介護者との二人暮らしの家族の支援 *



息子さん

サービス事業所や関係者に
すぐに相談ができた事は安心感があった。
苦手なところを助けてもらい、自分で判断ができない事
も専門職からの助言がいいタイミングで聞けて、
自分でも工夫していった。
身体的に落ちついていれば、まだ自宅で看られるかな。



ケアマネ

- ・相談相手や介護状況が共有できる人の存在が大切。
- ・特に苦手分野に支援を集中する。
- ・体調変化時などの医療面の早期な対応。
- ・専門職の関わりや視点が悪化予防となる。

第1回 みょうこうケアフォーラムでまとめられた、介護負担(肉体的、心理的、時間的、経済的)の中で、今回はどの支援に当てはまったかまとめてくださいました。

上のスライドの息子さんの言葉にもありましたが、心理的な負担への支援が在宅生活への、安心感につながっていると思いました。

* 支援のまとめ *

